

分類番号

210

テーマ別調べ方ガイド



日本研究

について調べる



★ 関連キーワード

- ・グローバル人文学
- ・歴史学
- ・社会学
- ・文化研究

「Paste (ぱすて)」とは？

ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイドです。みなさんの学習をサポートする、総合図書館ラーニング・サポーター（LS）による作成です。レポート作成の際などにお役立てください

1. はじめに:「日本」を問う

日本研究とは、日本・日本文化・日本社会などを対象とした研究領域である。特定の国や地域を一般的に対象とする地域研究(Area Studies)のひとつである日本研究は、歴史学、言語学、社会学、文学研究、ジェンダー・スタディーズや人類学などといった人文・社会科学の複数の学術分野から方法論と理論を用いて研究対象に迫る学際的な研究領域である。そこでまず【2-1】では、歴史学、ポストコロニアル理論、カルチュラル・スタディーズやメディア研究に影響を与えた古典的著作を取り上げて、「日本」を問う視座を得るための図書を把握する。次に、【2-2】では、現代の日本研究を代表する図書を取り上げる。ここで紹介する図書は、日本を構成する多数で多様な諸地域、社会、空間や文化に改めて注目して、さらには国境や様々な境界を越えた諸地域との交渉を記述しており、世界を理解する研究領域としての日本研究の意義を明らかにしている。

上記のような多様な視座が日本研究のあり方に大きな影響力を持つようになった背景としては、近代世界の歴史的展開に対する反省と問題意識が基盤にあると言える。19世紀後半から20世紀初頭にかけて、欧米の資本主義先進国・工業国は、アジア、アフリカや太平洋の植民地分割を急速に進めていった。一方、【3】で述べるように、1870年代から近代国家の建設を急いでいた日本も、東アジアにおいて植民地帝国を徐々に確立させていった。近代日本が国民国家と同時に植民地帝国として展開したことは、その歴史的あゆみや東アジアと欧米諸国との関係を大きく規定した。

このような時代背景のもと、日本と複数の地域や国との交流が拡大し活発化していくにつれて、主として英語、フランス語やロシア語などの諸言語圏において日本研究が行われるようになった。日本で創立された近代的な大学などでも、自国の言語、文学や歴史などを対象とした専門的な学術研究が組織化されていった。ただし、「西洋文明」や「白色人種」の優越性をイデオロギー的支柱として植民地支配や帝国主義的膨張を強行していたヨーロッパで始まった研究の中には、日本をエキゾチックで異質な存在として捉える傾向があった。また、近代国民国家や植民地帝国の形成と深く関わった日本で行われた研究は、自国の固有性、伝統との連続性や優越性をことさらに強調する傾向を持っていた。

その後、2度にわたる世界大戦や脱植民地化のプロセスを見た20世紀を通して、人文・社会科学全体に内在していたエキゾチシズムやナショナリズムが批判と反省の対象となった。日本研究では、「伝統の日本」、「美しい日本」や「異質な日本」という理解が相対化され、日本国内に自己完結した枠組みを越えて、複数の地域や文化との相互作用のなかで日本の歴史、社会や文化を捉え直すことが提起されてきた。ところが、2019年現在では、過去の植民地支配や侵略戦争を擁護または正当化する論調が新たに広がっている。さらに、「外国人」の視線を介して「日本・日本人とは何か」を問いかけ、または「すごい日本」の再発見を促す図書、テレビ番組やインターネット上のコンテンツも多く見られる。このように現代とは、「日本」を語る欲望が溢れている時代であるといえる。一方現代では、在日外国人や移民、女性、多様なルーツ、エスニシティや文化的背景を持った者、LGBTQや障がい者による社会での広汎な活動の影響で、従来から日本社会のなかにあった多様性が一層顕著になってきている。このような中で、【4】で取り上げる図書を通して確認できるように、日本社会の内実が改めて問われており、日本研究が取り組むべき課題や、その学術的知見の社会的役割と価値が一層強く求められている。

2. 日本研究の基礎

2-1. 日本を問う視座を得るための図書

■ Asian Forms of the Nation / Edited by Stein Tønnesson and Hans Antlöv

従来の歴史学や社会学におけるナショナリズム論では、一般的に西洋と呼ばれる諸地域の歴史的経験を基盤に展開されており、アジア、アフリカとラテンアメリカにおける国民国家の成立やナショナリズムの展開は西洋の先例を踏襲し反射したものと理解されてきた。これに対して本書は、既に西洋で出来上がった模範をただ単純に真似たのではない、アジアにおける国民国家とナショナリズムの成立過程、あり方と展開を考察する。ヨーロッパ中心主義的な観点を克服して、アジアの歴史と現在とを説明できる国民国家論・ナショナリズム論を提示して、これらの問題に関する議論と論理の多様化を企図している。本書を通して、国民国家とナショナリズムをめぐる諸問題に関する基礎的・古典的な議論の概要を確認しつつ、アジアの文脈の中での日本の事例を考えることが出来る。

【書誌 ID=2003959854】 外国図書館 312.2||52

■ Orientalism / Edward W. Said (Vintage Books ed., 25th anniversary edition)

「オリエンタリズム」という言葉は、西欧において美化された異国趣味の芸術や東洋研究を従来は指していた。本書は、「西洋」と「非西洋」の間における支配関係に根ざした非対称な関係性を主題にして、この言葉の意味を再定義した。西欧において「東洋」(Orient, the East)と呼ばれた領域(中近東、インド、東アジア)に対する管理、支配と再編成を可能にした思考や知識生産の様式として「オリエンタリズム」という概念を改めて定義して論じて見せたことは、大きな反響を呼んだ。サイードは、それまで経済や政治の観点から分析されていた植民地主義や帝国主義を、文化や知識の問題として再考するための視点を明確に提示した。以来、文学研究、文化人類学や歴史学などに強い影響力を及ぼしてきた。本書は、欧米諸国で生み出された表象と知識だけでなく、近代日本の諸学問や文化における自己理解や、東アジア・太平洋に対する植民地支配の歴史を考える際にも示唆的である。

【書誌 ID=2003709227】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 220||SAI

[原著(New York 1978)の邦訳] オリエンタリズム / エドワード・W.サイード著 ; 今沢紀子訳

【書誌 ID=2002042997】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 220||SAI

■ Representation / Edited by Stuart Hall, Jessica Evans and Sean Nixon (2nd ed)

「日本は礼儀の国」、「日本文化は四季の移り変わりを大事にする」、「日本人は勤勉で規律を厳正に守る」というイメージは、日本内外のメディアによく見られる。メディアが発信するイメージを通して、人々が日本や日本文化に対して複数のイメージを共有しながら、または異なるイメージを持ちながら対話をする。本書は、記号や象徴で構成された「言語」(言葉をはじめとして、音や音声、画像や視覚情報、さらにはモノまでもが意味を伝える言語の構成部分となり得る)を通して意味を社会的に共有する様々な行為が、どのようにして文化を形作っていくかを論じている。その際、ある言語を用いて社会的に意味を共有する営みを「表象」として対象化している。このように、本書は表象が社会を左右する制度や実際の権力関係とどのように関わるのかを問うための重要な視点を提起している。

【書誌 ID=2004406180】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 361.5||HAL

2-2. 日本研究の入門書

■ An introduction to Japanese society / Yoshio Sugimoto (4th ed)

現代日本社会の多様性を多角的に紹介した格好の入門書として好評を博し、すでに第4版まで重ねている。1960年代から1990年代にかけて日本内外の出版やメディアで広く流通して大きな影響力を発揮した「日本人論」ないし「日本文化論」が提示した日本社会に対する認識を見直し、現代日本社会の複雑性と課題を再認識する問題意識を提示する。日本人論的分析は、経済的・社会的格差や文化的差異の希薄性、日本社会内の同質性と平等性への志向、個人の主張より社会集団内の秩序と調和を優先する志向、集団間の調和と合意を追求する志向を強調して、日本人全員がこれらの志向を同程度に共有していると暗に想定している。これに対し著者は、階級や社会的階層、地域や世代、職業や労働環境、教育的背景、ジェンダーや家族環境、エスニシティや日常生活の条件などに着目して、現代日本社会の共有されたイメージに回収されない複雑性を提示する。最新の4th ed.(2014)では、グローバルな広がりを持つ日本のポップ・カルチャーや、東日本大震災・福島第一原発事故、東アジアにおける歴史認識をめぐる対立などを意識した加筆修正がなされている。

【書誌ID=2004363130】総合図-A棟3/4階 学習用図書 362.1||SUG

■ A modern History of Japan: from Tokugawa times to the present / Andrew Gordon (3rd ed)

近現代の日本の歴史を扱った入門書の中でもベストセラーの地位を獲得している。1800年前後という幕藩体制の後期と解体から記述を始めて、19世紀半ば以降の近代化に向けた諸改革とそれに伴って展開された政治、社会、経済、文化における決定的な変革に続いて、2011年の東日本大震災・大津波・福島第一原発事故とその後の状況にいたるまで日本の歴史的展開を詳細に描いている。著者は、過去200年にわたる日本列島の歴史を日本独自のものとしてではなく、アジアをはじめとして世界各地で経験された近代の歴史の一部として位置づける。そうすることで、近現代世界と日本とを結んだ相互的関連性を強調しつつ、日本の歴史的展開を記述している。さらに、一般の人々の生活、労働、ジェンダー間の関係のリアリティ、経済と社会の諸問題、日常の娯楽や文化などの記述が充実しており、多角的かつ重層的に日本の歴史を学ぶための基礎を提供してくれている。

【書誌ID=2004327988】総合図-A棟3/4階 学習用図書 210.6||GOR

[原著第3版の邦訳] 日本の200年:徳川時代から現代まで(新版)

【書誌ID=2004304267】総合図-A棟3/4階 学習用図書 210.58||GOR||1, 2

■ 「日本」とは何か / 網野善彦著(日本の歴史 00)

日本中世史の専門家である著者が、一国史観、進歩史観、そして均質な日本像を前提とした日本人論や日本文化論を根底からくつがえすことを目指した問題提起的な作品である。そのために著者は、日本列島にある諸社会が、アジア大陸をはじめとする世界の諸地域との人々・モノや文化の移動に媒介された様々な交流や関係の中で形成されたという問題意識を提起している。この視座から、「天皇」称号や「日本」国号の成立を検証して、さらに日本列島諸地域の多様な生業や生活様式の歴史に注目している。この作業を通して、単一民族・単一国家・孤立した島国・均質な社会という認識をくつがえす、きわめて多様な個性を持つ諸地域から構成されている「アジア大陸東辺の架け橋」としての日本の姿が見えてくる。さらに、著者が歴史的過去を扱うに際して、自らの歴史的経験を踏まえていることに注目したい。戦時下の学校教育で「皇国史観」(天皇を中心に日本の歴史を捉

える歴史観)を教わった体験や、進歩史観を大きくゆるがせた核兵器開発がもたらす全地球の生命に対する危機感、そして産業発達や資源開発による深刻な自然破壊と公害の経験が本書の記述に通底している。自分自身が生きる経験や同時代の社会的現実を踏まえながら、過去に対する理解を問い直し、現在社会に対する問題提起と未来に向けての豊かな可能性を想像するための視座を示す本書は、それ故に歴史学研究や日本研究の意義を強く物語っている。

【書誌 ID=2003422447】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 210.1||NIP||00

■ Re-inventing Japan : time, space, nation / Tessa Morris-Suzuki

島国の日本は、あたかも自然的な単位であるかのようにイメージされ、1つの文化を共有する1つの民族が住んできたかのように語られてきた。これに対して著者は、空間(自然的・地理的条件)と時間(共有される歴史や、単線的な進歩としての「文明」概念)という2つの軸を設定して、近世から近現代にかけての日本において、自然、文化、人種/民族、ジェンダー、文明、グローバル化や市民権がどのように論じられたかを分析している。東アジアや太平洋の中で日本という領域がどのように画されたのか、その中央、周辺や境界がどのように設定されたか、そしてこのような領域へどのような人々がどのように包摂されたのか、またはそこから排除されたのか、などの問いが発せられている。これらの問いに答えていくなかで、絶えず定義され何度も再発明された「日本・日本人・日本文化」の可変的で流動的なあり方が浮かび上がる。その際、これらの問題を近代日本特有のものとはみなさず、近代国民国家がそれぞれの歴史的・社会的な文脈に沿って共有した課題として位置づけている。この視座から、日本や日本文化に関する考察を通して、人文学や社会科学で共有されている問題意識や課題に迫るという日本研究の意義が明確に打ち出されている。

【書誌 ID=2003311533】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 210||MOR

[邦訳] 日本を再発明する : 時間、空間、ネーション / テッサ・モーリス=スズキ著 ; 伊藤茂訳

【書誌 ID=2004326731】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 210.04||MOR

3. 過去から日本を問う

3-1. 植民地帝国・日本の成立、展開と崩壊

■ 植民地帝国日本 (岩波講座近代日本と植民地 1)

植民地帝国日本の形成や支配の構造と展開、そして帝国の崩壊とその後を歴史学から総合的に論じたシリーズ『岩波講座 近代日本と植民地』の第1巻である。19世紀後半を通して加速した全世界規模での植民地分割競争という時代背景や、アジア・太平洋地域での国際秩序の変化という状況の中で、直接的な政治支配と行政的統治による日本の「公式帝国」の確立を、政治的・経済的・法的支配の側面から考察している。本書で概略された植民地帝国日本の形成に関する観点を土台にして、『帝国統治の構造』(第2巻)や『植民地化と産業化』(第3巻)、『拡張する帝国の人流』(第5巻)や『文化のなかの植民地』(第7巻)、そして『抵抗と屈従』(第6巻)や『アジアの冷戦と脱植民地化』(第8巻)といった論点から植民地帝国日本の歴史を幅広く学ぶことができる。なお本講座の成果を受けて『岩波講座「帝国」日本の学知』(総合図書館所蔵、全8巻)が編纂された。これは学術、知識や文化の政治的機能の問題を視座に入れつつ、多民族帝国であった近代日本の「知的遺産の批判的継承」を目指した講座であり、本書と合わせて、日本帝国の歴史、残滓と遺産を批判的に

検討するための契機となるだろう。

【書誌 ID=2003029467】 総合図-書庫 210.6||IWA||1

■ 植民地 : 20 世紀日本 帝国 50 年の興亡 / マーク・ピーティー著 ; 浅野豊美訳

日本帝国主義や日本海軍の歴史を研究してきた著者が、日本の一般読者のために、日本の帝国主義と植民地主義の歴史について概観した基礎的な入門書である。植民地帝国日本の成立、展開と崩壊の過程が概観されており、植民地統治の諸形態や、植民地化され支配された人々の反応、日本の植民地主義と帝国主義が残した遺産、そしてこれらの問題について考える現代的な意義が論じられている。19 世紀後半という「帝国の時代」の中で、近代化しつつあった日本が歴史的・文化的に深い交流があった東アジア諸国を植民地支配下に置いた過去と現代的な遺産を批判的に考える上で、よく整理された入門書といえる。

【書誌 ID=2004266016】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 210.6||PEA

■ 「日本人」の境界 : 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮植民地支配から復帰運動まで / 小熊英二著

近代において、「東洋」の「有色人種」の側であるとされていながら、他方で「西洋」の「白人」と並んで支配する側でもあったという「日本」は、矛盾に満ちた両義的位置にあった。このような矛盾ないし両義性は、日系移民排斥に代表される差別を受けながら、同時にアジア・太平洋地域において植民地支配の主体である、という状況に現れていた。著者は、この両義的な状況が日本のナショナル・アイデンティティの形成にどのような影響を及ぼしたかという問いから出発している。この問いを受けて、近代日本の政治的言説に着目して、「日本人」とはどの範囲の人々を指した言葉であり、日本人の境界はどのように設定されてきたのか、またはその範囲や境界はどのように変遷したのかを考察している。この作業を通して、東アジアや太平洋地域に支配範囲を拡大した近代日本において、多様な人々を日本人に同化させようとした志向と、同時に日本人という範囲から排除しようとした志向が相互に衝突した歴史が描かれている。国民、民族や国家という単位が歴史的状況や個別の論点によって変容するという本書の視座は、過去において、そして現代において、空間と人間集団の間に境界線を引くという思考と行為は何を意味するのか、という問いを改めて提示している。

【書誌 ID=2003293365】 総合図-書庫 210.6||OGU

4. 今、日本の内実を問う

4-1. 日本のなかの多様性

■ Japan's minorities : the illusion of homogeneity / edited by Michael Weiner (2nd ed)

植民地帝国期から戦後にかけての自己と他者を区別した政治的・思想的・社会的力学の形成と展開という歴史的経緯を意識しつつ、21 世紀初頭の現在において様々なマイノリティが日本社会の中でどのように生きており、どのような問題に直面して、それらにどう対応しているかを論じている。東アジアや欧米諸国との交流の中で成立した帝国日本において自己と他者に対する認識がどのように形成され、帝国崩壊後の戦後社会に何が継続したのか、という問いが本書を貫いている。この問題意識を踏襲して、アイヌ民族、複数の民族や人種をルーツに持った人々、被差別部落出身者、在日コリアン、在日中国人、ブラジル人、黒人、沖縄の人々という、多様な人々の歴史と現状が取り上

げられている。現代社会での様々な個人や集団の参加、排除や差別の問題、さらには差別の消滅に向けた抗議と取組み、そしてアイデンティティーを巡る多様な側面を考える糸口となるだろう。

【書誌 ID=2004099718】 総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 316.81||WEI

■ 在日外国人：法の壁、心の溝 / 田中宏著（第3版）

1960年に留学生と出会い、それ以降アジア諸国の留学生と関わる仕事と支援運動に携った著者がその個人的な経験を出発点として、詳細な統計データと法律や制度に関する資料を駆使しつつ、在日外国人が直面してきた諸問題の歴史的経緯と現状を取り上げている。政策、法律や制度の形成と変遷という観点から、植民地支配の歴史と関わりの深い在日韓国・朝鮮人や、日本帝国が侵略した中国の出身者、さらには留学生、外国人労働者、難民や移民という多様な在日外国人の歴史と現状を描いている。そして、在日外国人が敗戦以来どのように処遇され、その処遇を改善するためにどう行動したかを記述している。これを通して、在日外国人が直面する「法の壁」を認識するとともに、在日外国人に対する差別や政治的・社会的無関心という「心の溝」を直視することで、「国籍とは、民族とは、人権とは、という古くて新しい問題をいっしょに考えていただければ」と提案している。

【書誌 ID=2004281944】 総合図-A 棟 3 階 文庫・新書 089||IS||R1429

■ 多文化共生論：公開講座 / 米勢治子, ハヤシザキカズヒコ, 松岡真理恵編；志水宏吉 [ほか著]

本書は、静岡県浜松市で開催された公開講座を基にしている。そこでは、製造業が盛んで多くの外国籍住民が生活している地域の行政機関、NPO や市民グループ、さらにはフリースクール、高校や大学といった様々な主体による「多文化共生」にかかわる取組みと課題が共有された。本書では、外国人、難民、移民、エスニック・マイノリティなどの社会統合に関する諸相を包括的に表した言葉として多文化共生が定義されている。経済的格差、差別や社会的疎外の問題も多文化共生の範囲内に含めていることが注目に値する。この観点から、静岡県浜松市とその周辺地域で教育、就労、医療や司法などの様々な現場で当事者と関わった人々の実践、知識、問題意識と課題が提示されている。公共政策、労働社会学、言語社会学、文化人類学、歴史学、教育学や精神医療などの分野にわたる問題関心を踏まえながら、多文化共生を複合的に考える視座を汲み取ることができる。

【書誌 ID=2004209986】 総合図-A 棟 3 階 留学生用図書 334.41||YON

4-2. グローバル化の中で

■ トランスナショナル・ジャパン：ポピュラー文化がアジアをひらく / 岩淵功一著

アジア太平洋戦争での敗戦を経た日本では、アジア諸国に対する帝国主義的侵略、植民地支配や文化的同化主義が忘却され、さらにアジア中心から米国中心の「西洋文化」への文化的方向性の転換があった。このように、「西洋文化」に対する交渉、土着化と混淆化による、ドメスティックで内向的な「日本文化」の構築が試みられた。ところが1990年代以降、メディア、通信、経済や文化のグローバル化がもたらした影響によって、ポピュラー・カルチャーを媒介として日本がアジアへ「回帰」したといえる。この時期から日本のポピュラー・カルチャーがアジアで流通したと同時に、アジアのポピュラー・カルチャーが日本に普及したのである。本書はメディア論の観点から、1990年代における日本とアジアの「再会」を批判的に検討しており、次のような問題を論じている。すなわち、近代日本のナショナル・アイデンティティの変遷を形作った「日本・アジア・西洋」という地理的・文化的・政治的な

カテゴリーの関係がどのように再配置されたのか。アジア主義や帝国主義という近代日本のアジアに対する対処方法がこのようなポピュラー・カルチャーのトランス・ナショナルな流通のなかでどのように連続しており、またどのように断絶しているのか。内向的な姿勢で自文化を語る欲望が日本をはじめ多くの国々で強まっている 2010 年代末の現在において、グローバル化するアジアにおける「日本文化」の内実、位置づけと政治性を考えるための視座を提供してくれる。

【書誌 ID=2004403291】理工学図-東館 2F 文庫新書 K||IGG-354

5. 参考図書やウェブサイト

5-1. 辞典類

■ 角川日本史辞典 / 朝尾直弘, 宇野俊一, 田中琢編 (新版)

古代から近現代にかけて、日本の歴史に関する項目を収録した辞典。

【書誌 ID=2003719940】総合図-書庫 210.033||ASA

■ 人の移動事典 : 日本からアジアへ・アジアから日本へ / 吉原和男編者代表 ; 蘭信三 [ほか] 編

アジア太平洋地域に焦点を当て、日本およびアジアでの人の国際移動を学際的かつ総合的に論じた項目事典。人の国際移動という観点から、近代における帝国の形成、拡張と崩壊を通して、さらにはグローバル化時代の日本をアジア太平洋地域の文脈で考えるための多くの視座を含んでいる。

【書誌 ID=2004303886】総合図-書庫 334.4||YOS

5-2. ウェブサイト

■ The Asia-Pacific Journal: Japan Focus (<https://apjif.org/>)

アジア太平洋地域を対象として、国際関係、政治や経済、社会や文化に関する歴史のおよび現代的な問題に関する幅広い英語論文を無料公開している隔週ジャーナル。

■ 国際日本文化研究センター (<https://www.nichibun.ac.jp/ja/>)

日本の文化や歴史を国際的な連携と協力のもとで研究することを目的とした大学共同利用機関のウェブサイト。複数の国籍、地域や言語を背景に持つ研究者が取り組む日本研究の現在の一端を知るための情報を汲み取ることができる。

■ 国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>)

国立国会図書館が収集し保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるデータベース。古典籍や近代以降の雑誌と図書、さらには官報などの国家機関が発行する資料、日本占領関係資料などを収録しており、日本の歴史、社会や文化について調べる際に参考となる。

本文中で紹介している図書・雑誌について

図書名・雑誌名の後ろに「書誌 ID」(10桁の数字)の記載があるものは大阪大学で所蔵しています。この10桁の数字で大阪大学 OPAC(蔵書検索システム)が検索できます。

